

自助・近助・共助・公助

「自助」とは自らの命は自分で守ること、「近助」とは向こう三軒両隣の顔の見える関係で助け合うこと、「共助」とは隣近所が助け合って地域の安全を守ること、「公助」とは行政が個人や地域の取組みを支援したり、「自助・近助・共助」では解決できない大きなくりの仕事を言います。防災対策は「自助・近助・共助・公助」の4つの力が連携することが必要です。

4つの「助」けあい連携・相互協力する支えあいのしくみ



地域を守る組織 (行政と市民の協力) 共助

「長岡京市防災の日」について

市では、毎年10月最終日曜日を「長岡京市防災の日」としています。市内の関係団体・機関をはじめ、広く市民のみなさまに「一斉防災訓練」を周知するとともに、防災意識の高揚を図るために制定しました。

自主防災会

自主防災会とは、町内会・自治会・マンション等において、自主的に防災活動を行う組織のことで、長岡京市では、令和6年4月現在、60の自主防災会が結成されています。

地域コミュニティ協議会

地域コミュニティ協議会は小学校区単位で組織され、校区内の住民や各種団体など、様々な方が交流し地域コミュニティの活性化を図っています。また、校区の防災訓練を主催するなど、日頃から防災への取組みも行っていきます。

自分たちのまちは自分たちで守る

消防団



消防団は、地域住民を中心に組織された消防機関です。地震・風水害・林野火災時には、災害防御活動に従事します。

現在、長岡京市消防団は総勢150名の5つの分団によって構成されています。(令和6年4月1日現在)

水防団



水防団は、増水した河川のパトロールや堤防に土のうを積んで越水を防いだりして、洪水から地域を守る活動を行っています。

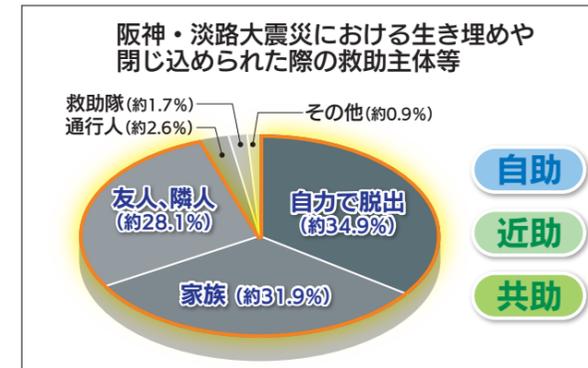
現在、長岡京水防団には、勝竜寺、久貝、神足、古市の4つの班があります。

大規模広域災害時の自助・近助・共助の重要性 自助 近助 共助

阪神淡路大震災では、自力で脱出したり、家族、友人、隣人等によって救出された割合が約9割を超えており、救助隊によって救助されたのは1.7%であるという調査結果があります。

大規模な災害では、公的機関の救助や支援が届くまで時間がかかることや、対応する範囲にも限界があります。

発災時には近所の人と助け合う等、「自助・近助・共助」による災害被害軽減のための努力も必要です。



出展：兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書（日本火災学会）

岡山県総社市下原地区の事例 近助 共助

平成30年（2018年）7月の西日本豪雨では、洪水や土砂崩れによる直接死で14府県の222人、岡山県では61人が命を奪われました。平成最悪の水害となった中で、最大3メートルの浸水被害とアルミ工場の爆発があったにもかかわらず、夜中に住民約350人が全員避難し、1人の犠牲者も出なかった地区があります。それは岡山県総社市にある下原地区です。

なぜ、下原地区では全員が無事に避難できたのでしょうか。その中心にいたのは、自主防災組織でした。下原地区では、東日本大震災の翌年である平成24年（2012年）4月に自主防災組織を立ち上げ、特に年1回の避難訓練に重点を置き、夜間や雨天での避難訓練も実施されています。また、避難の際には、避難の呼び掛けだけでなく、避難後の安否確認も重視するなど、日頃の取組みを通して、災害時に生きる共助体制の構築を目指されています。そして日頃の努力は、西日本豪雨で実を結ぶこととなります。

自主防災組織は、浸水被害が発生する前の7月6日の午後4時から最初の打合せを行った後、川の見回りを実施。川の増水を確認し、午後10時半に開いた2回目の打合せで、自宅2階への避難を促すことを決め、拡声器を付けた軽トラック等で地区内を回り、呼び掛けました。この自前の「災害広報車」も訓練の中で生まれたアイデアでした。

午後11時半頃、近くのアルミ工場で浸水による水蒸気爆発が発生。地区内にはアルミの塊や鋼材が飛び散りました。日付が変わった7日の午前0時半頃、市役所から2次爆発の可能性があるという連絡が入り、夜間の猛烈な雨に加え、アルミ工場爆発の影響で火災も発生する中で、7人の班長が全戸に呼び掛け、洪る人も説得しながら、7日午前2時半頃までに大半の住民が避難を終えました。その後、近くを流れる小田川が決壊し、下原地区は最大3メートルの浸水被害に見舞われましたが、既に全員避難が完了した後のことでした。

この事例は、避難の呼び掛けに応じたという一見単純なものに思われますが、避難行動は日頃から積み重ねられた訓練等により、避難を呼び掛ける人と呼び掛けに応じる人、それぞれの心構えと行動の準備が無ければ成立しません。下原地区のみなさんは、極限の状況下で理想的ともいえる共助を実現されました。



写真：下原地区、アルミ工場（左手前）の浸水状況（岡山県消防防災航空センター提供）